

郵便年金法案外一件特別委員會會議事速記録第一號

付託議案
郵便年金特別會計法案

委員氏名

委員長 侯爵佐佐木行忠君
副委員長 小松謙次郎君

子爵大河内輝耕君
藤澤利喜太郎君
男爵黒田 長和君
室田 義文君
末延 道成君
永田 仁助君
山崎 龜吉君

大正十五年三月十八日(木曜日)午後一時
八分開會

○委員長(侯爵佐佐木行忠君) 開會イタシ
マス、頼母木政府委員

○政府委員(頼母木桂吉君) 郵便年金ノ法

案ニ付キマシテ大體ノ御話ヲ致シマシテ、
本案審議ノ御參考ニ致シタイト存ジマス、
年金ニハ御承知ノ通り官吏ノ恩給ヤ會社ノ
勤続年金ノ如キ恩惠ノモノト、労働保險
ノ一種タル養老年金ノ如キ強制的ノモノ
ト、共済組合ノ傷病年金ノ如ク共済的ノモ
ノト又保險ノ性質ヲ有スル年金等種々ゴザ
イマスルガ、本法案ノ年金ト申シマスル
ハ、保險ノ一種類ニ該當スル年金制度デア
リマス、即チ主トシテ活動力ヲ奪ハレ、所
得能力ヲナクシタル者ノ生命ノ存續ニ因テ
生ズル必要ノ經費、例ヘテ申シマスレバ、
老後ニ於ケル生活費トカ、又ハ世帯主ヲ亡
クシタ寡婦ヤ遺族ナドノ生活費ニ當テル爲ニ
豫メ準備スル所ノ相互扶助組織ノ制度デゴ
ザイマス、郵便年金事業ノ要領ハ御手許ニ

差上デマシタ郵便年金事業要綱ニ詳細載セ
テゴザイマスルガ、其主要ナ部分ヲ説明イ
タシマス、第一ハ年金ノ種類、即時終身年
金、及ビ据置終身年金ノ二種ト致シマシ
テ、更ニ支拂開始ノ時期ニ依リマシテハ、
五十歳支拂開始、五十五歳支拂開始、六十
歳支拂開始、六十五歳支拂開始ノ四ツニ區
別イタシマシタ、年金ノ中ニテ、定期年金、
遺族年金等モゴザイマスルガ、差當リ最
モ必要ナリト思ハレル終身年金ノミニ止メ
マシテ、之ヲ支拂開始ノ時期ニ依ッテ即時
終身年金ト、据置終身年金ノ二種ニ別チマ
ス、据置年金ハ將來ノ必要ヲ豫見イタシマ
シテ、豫メ準備イタスモノデアリマスカ
ラ、普通所得能力ノ衰退スル時期ヲ標準ト
シマシテ、五十歳以後ニ於テ支拂ヲ開始ス
ルコトト致シマシタ、即時年金ハ、例ヘバ
寡婦ニナツタト云フヤウナ事情デ、直チニ確
實ナ年々ノ收入ヲ必要トスル場合ニ利用セ
ラレルモノデアリマスカラ、据置年金ノ支
拂開始ノ時期ヨリモ年齢ヲ繰上ゲテ四十歳
ト致シマシタ、年金額ニ付テ申シマス、最
高額ヲ一人ニ付、年額二千四百圓ト致シマ
シタ、此制度ハ中産階級ヲ目的トスルモ
ノデアリマスカラ、相當ノ額トスル必要ガ
ゴザリマスガ、一面餘リ高額ノ加入ヲ認メ
マス、少數ノ加入者ノ爲ニ事業ニ惡影響
ヲ受クルノ虞モアリマスルカラ、最高制限
額ヲ設ケテ二千四百圓ト致シマシタ、最低
額ハ種類ニヨリ區別シテ掛金分割拂ハ年
額、百二十圓、一時拂ハ年額十二圓ト致シ
マシタ、即チ掛金ヲ年々ニ分割シテ拂込ム
年金ニアリマシテハ、年金ノ效果、掛金ノ

額、取扱費等ノ關係カラ、年額百二十圓ヲ
以テ最低限度ト致シマシタ、又掛金ヲ一時
ニ全部拂込ム年金ニアリマシテハ、資力ノ
乏シキ人ニ利用シ易カラシムル爲ト隨時ニ
其年金ヲ増加シ得ルヤウニ致シマス爲ニ、
年額十二圓ト致シマシタ、加入年齢ハ又年
金ノ種類ニ依リマシテ即時終身年金ハ四十
歳以上、八十歳マデ、据置終身年金ハ十二
歳以上五十歳迄ト致シマシタ、据置終身年
金ハ通例所得ノ一部ヲ蓄積シテ、老後ノ準
備ヲナサントスルモノデアリマスカラ、其
加入年齢ハ所得能力ノ生ズル時期カラ、其
減退ニ至ル期間ヲ標準ト致シマシテ、十二
歳以上五十歳マデ加入シ得ルコトト致シマ
シタ、又即時終身年金ハ、此種年金ヲ必要
トスル年齢ヲ斟酌イタシマシテ、四十歳以
上八十歳マデト致シマシタ、次ニ此制度ニ
於キマシテハ社會ノ實情ニ鑑ミマシテ、元
金留保及ビ元金拋棄ノ二種ノ契約ヲ認メマ
シタ、即チ契約解除ノ場合ヤ、年金受取人
死亡ノ場合ニ於テ、拂込ミタル元金ヲ返還
スル所謂元金留保ト、之ヲ返還シナイ所謂
元金拋棄ノ契約トヲ設ケマシテ、申込ノ際
契約者ニ其何レカヲ選擇セシムルコト、致
シマシタ、元來年金ノ趣旨カラ見マス、
元金拋棄ガ適當ノヤウニ思ハレマスケレド
モ、我國ノ實情カラ見マス、加入者ガ死
亡シタ時ニ、元金ノ全部ヲ損失ニ歸スル契
約ハ利用ガ少ナイカト考ヘマスノデ、兩種
ヲ置クコト、致シマシタ、掛金計算ノ基礎
ハ、第一ハ死亡率ノ點デゴザイマスガ、死
亡生殘表ハ男子ハ内閣統計局發表、第二死
亡表、男子死亡率ヨリ二割ヲ減ジテ作成シ

タルモノ、女子ハ内閣統計局發表、第二死
亡表、女子死亡率ヨリ三割ヲ減ジテ作成イ
タシマシタモノヲ基礎ト致シマシタ、年金
ハ健康ナ人ガ加入スル傾向ガアリマス上
ニ、弱者ハ契約シナイト云フヤウナ關係
モアリマスノデ、一般ニ死亡率ハ低イノデ
アリマス、英、米、獨、佛等ノ各國ノ年金
者死亡率ノ實際ト、國民死亡率トノ關係ヲ
見マシテモ、其間ニハ相當ノ開キガアリマ
ス、又男女ノ間ニモ開キガアルノガ例デア
リマスカラ、右ノヤウニ定メマシタ譯デア
リマス、豫定利率ハ掛金分割拂ノモノハ年
五分ト致シマシテ、掛金一時拂ノモノハ拂
込當時ノ公債ノ時價ヲ參酌イタシマシテ
豫定利率ヲ定メマシタ、此事業ニ於キマシ
テハ長期ニ亙ッテ成ベク有利ニスル必要ガ
アリマスノデ、資金ハ主トシテ公債ニ放資
スル見込デアリマスカラ、公債ノ利廻ヲ標
準ト致シマシテ右ノ如ク定メマシタ、事業
費ニ充ツル附加率ハ、事業費ハ成ルベク節
約スル趣旨カラ前ニ申上ゲマシタ(一)、及
(二)ノ基礎ニ依リマシテ死亡率及ビ掛金ノ
此基礎ニ依リマシテ、算出シタル掛金ノ凡
ソ百分ノ五以内ニ於テ諸般ノ經費ヲ賄フコ
ト、致シマシタ、掛金ノ拂込ニ付テ申シマ
ス、掛金ノ拂込ハ加入者ノ事情ニ應ジマス
爲ニ一時ニ全部ヲ拂込ム一時拂ト、年々分
割シテ拂込ム分割拂トヲ設ケマシタ、簡易
保險ノ如キ月拂ハ經費ヲ節約スル關係上認
メマセヌ、併シ分割拂ノモノハ年掛、半年
掛及ビ年四回掛位ノ程度ニ細分シテ拂込ム
コトハ認メル積リデアリマス、又掛金ハ總
テ郵便局ノ窓口ニ拂込ムモノトシマシテ、

集金ハ致シマセヌ、是モ經費ノ關係カラデゴザイマス、年金ノ支拂ハ年一回拂ニスルカ、毎月拂ニスルカ、或ハ其ノ中間デ何回カニ種々考ヘラレルノデアリマスルガ、年一回デハ少ナイヤウニ思ヘハマスシ、又毎月拂ニスルコトハ經費ノ増加スル關係モアリマスノデ、恩給ト同ジヤウニ年四回拂ヒト致シマシタ、拂込掛金返還額ニ付テ申シマス、元金ヲ保留イタシマシタ場合ニ返還イタシマスル額ハ次ノ通りデアリマス、年金受取人死亡ノ場合、年金支拂開始前拂込掛金ノ金額、年金支拂開始後、拂込掛金ヨリ既ニ支拂ヒタル年金額ヲ差引キタル殘額、ソレカラ契約解除ノ場合、拂込掛金ノ百分ノ九十以上、ソレカラ契約變更ノ場合、拂込掛金中變更後ノ契約ニ對シマシタハ變更マデニ拂込ヲ要シマスル掛金ヲ除キタル殘餘ノ掛金ノ百分ノ九十以上、ソレカラ會計ノ事ニ付テ申上ゲマス、會計ノ組織ニ付テ申シマスガ、此事業ハ一般會計ヨリ切離シマシテ、事業上ノ收入ヲ以テ支出ヲ支辨シテ行カケレバナリマセヌカラ特別會計ト致シマシタ、餘裕金ノ利用、當該年度内ニ於テ支拂上ノ餘裕金ハ成ベク有利ニ廻ハシマス爲ニ、大藏省預金部ニ預入スル外公債ヲ以テ保有スルコトガ出來ルヤウニ致シマス、積立金ノ運用ニ付テ申シマス、此事業ハ掛金ノ利廻リヲ比較ノ有利ニ致サナケレバ一般ノ利用ヲ期待シ難イト思ヒマスカラ、積立金ハ成ベク有利ニ且ツ確實ニ運用スルコトヲ方針ト致シマシテ、簡易生命保險積立金運用委員會ニ諮問シテ、國債、地方債ノ購入ヤ、又ハ公共團體ニ對シテ貸付ヲ放資スル考デゴザイマス、大要申上ゲマシタ、尙御質問ニ應ジマシテ御答ヲ致シマス

○委員長(侯爵佐々木行忠君) ソレデハ御質問ヲ願ヒマス

○未延道成君 郵便年金ト云フノハハ郵便貯金トモ云フ關係カラ、餘リ年金ヲ廣クナイ制限ニスル爲ニ郵便ト云フ言葉ヲ御使ヒニナシタモノデセウカ、或ハ此養老年金モ、政府ノ所謂金鵒勳章年金ト云フモノト區別スル爲ノ名目デセウカ

○政府委員(今井田清德君) 名前ノ御質問デアリマシタガ、名前ハ只今御話ノ通りニ郵便局デ之ヲ扱ヒマスノデ、郵便貯金、郵便爲替ト云フヤウナ例ニ倣ヒマシテ、郵便ト云フ字ヲ附ケマシタノデゴザイマス、色々名前ニ付キマシテ考ヘマシタガ、尤モ通俗的デ分リ易イ、サウシテ他ノ民間ニアリマスル年金デアリマスルカ、或ハ其他ノ年金ト區別スル上ニ於キマシテ、郵便年金ト致シタ方ガ宜カラウ、斯ウ云フコトデ年金ト致シタ譯デゴザイマス

○未延道成君 私ノ御尋スルノハ或ハ將來之ヲ大イニ押廣メテ、政府ノ所謂一般官吏ノ年金ト云フモノデモ之ニ矢張り引入レタ方ガ大變便利デアアル、又ソレガ非常ニ正鵠ヲ得ルデアラウト思ヒマス、實ハ今日或ハ年金増加ノ運動ヤ何カ流行ルノモ畢竟年金ガ：今日行ハレテ居ル年金ト云フモノガ、年齢ニ依ラズ、其人ガ罷メタリ、或ハ佐ノ貫、タ年金ノ方ガ東郷サンノ年金ヨリモ大キイ、丁度此年齡ノ計算カラ行クト東郷サンノ貫、タ所謂六十歳ノ年金ト、三十歳デ貫、タ少佐ノ所謂功三級デ貫、タ方ガ其表ニ依テ見テモ大キクナル、東郷サンノ所謂功一級千五百圓ト云フモノヨリ、少佐ノ三十歳デ貫、タ七百圓ノ功三級ト云フモノガ却テ大キイト云フヤウナコトノ勘定ニナシテ、非常ニ不釣合デアルト云フコトハ、是ハ先年私ハ桂内閣ノ時ニ、濟生會ヲ始メル寄附金ノ席デ、私ハ大イニ今日迄ノ全體功勞者ノ當ヲ得テ居ナイト云フコトヲ非常ニ論ジタコトガアリマスガ、關ヶ原ノ戰爭ニハ一戰デ百万石モ貫、タ人ガアルノニ、ドウモ東郷サンガ對馬海峽デヤッタノガ僅カ一ヶ年二千五百圓ト云フ年金ニナシテ居リマスガ、甚ダドウモ少イ、不釣合ナ年金デアルト云フコトヲ大イニ痛論シタコトガアリマスガ、矢張り今日デモ此所謂年金表ニ依テ之ヲ勘定シテ、矢張り金鵒勳章ノ如キヲ交付サレルヤウニスレバ非常ニ正鵠ヲ得ルト思、テ居リマス、郵便貯金ト云フモノヲモウ少シ押廣メマシテ、一般ノ官吏ノ功勞ノ年金ニモ之ヲ推及ボスト云フコトニセラレタナラバ、此方面ニモ大イニ好成績ヲ得ルヤウニナシテ來ルト思ヒマスガ、郵便貯金ト云フモノノ範圍ハ將來推擴メル望ハゴザラヌカ否ヤト云フコトヲチヨット御尋ネシタイ

○國務大臣(安達謙藏君) 今未延サンノ御話ノコトハ官吏ノ恩給問題、恩給法デスネ、アレト關聯シタ御話デスネ、御承知ノ通り是ハ國民ノ個人ノ自由意思デ郵便年金保險ニ掛ラウト云フ考ヘカラ起テ來ルトコトデ、今御話ノコトハ、是ハ國家ガデスネ、官吏ニ對スル待遇上カラ割出シタコトデアリマシタシマシタガ、恩給法ハ大問題ノヤウデゴザイマス、大分近來世間デモ目ニ付テ、極端ナル言葉ヲ以テ言フト恩給亡國ナドト云フ人モアリマス、今日マデハ立派ニ役所ニ勤メテ居、テ病氣デモ何デモナイ、ソレガ神經衰弱ト云フ醫者ノ診斷書ヲ出シテ免官トナリ、翌日カラ或會社ニ入、テ働イテ居ル、サウ云フコトモ大分アルヤウデアリマスカラ、何トカ恩給法ハ改正スル必要ガアリハセヌカト云フコトヲ考ヘテ居リマス、何レ此事ハ政府ト致シマシテモ行政調査會

ナドデ研究イタシマシテ、改良スル必要ヲ認メテ居リマス、ガ此恩給法ノ改正ト、ソレカラ此法案デスネ、此種類ハモウ少シ將來ハ範圍ヲ擴張スルヤウナコトガ出來ルラウト思ヒマスケレドモ、今ノ國家ノ功勞ニ對スル爲メノ恩給トハ性質ヲ異ニシテ居リマスカラ、此方ハ人民ノ自由ノ意思ニ依、テ、サウシテモ老後ノ安定ヲ得ル爲メノ一種ノ貯金デゴザイマス、併シ御話ノヤウナコトハ確カニ私ハ國家ニ缺陷ガアルト認メテ居リマスカラ、能ク調査ヲシマシテ、サウシテ何トカ一ツ恩給法ノ改正ヲシタイ、是ハ政府トシテモ、ソレカラ民間デモ大分近來著目シテ來タヤウデス、イロ／＼御話ノ金鵒勳章ノ運動ヤ何カナカ／＼猛烈デゴザイマス、能ク此國民ノ思想ヲ善導シテ切リ抜ケルト云フ考ヲ以テ、能ク注意ヲ致シマス積リデゴザイマス

○未延道成君 大體ニ於テ私ハ贊成スル方デ、殊ニ所謂兩院議員ノ方ニ又舊藩主ノ方ニノ如キ、或ハ家扶家從ヤ、從僕ヲ澤山抱ヘテ御座ル人ミガ、數年功勞アリタル者ト云フヤウナ者ニ年金ヲ與ヘルト云フコトハ、誠ニ英吉利邊デモ行ハレテ居ルノヲ、殊ニ我國デモ此決議ガアリマスレバ非常ニ利用サレルコトデアラウト思ヒマス、昨日新聞ニモ見エマシタガ、高田商會ガ破綻シタ、此破綻ヲシタ爲ニ社員ノ所謂養老積立金モ取ルコトガ出來ナクナシマッタト云フヤウナコトガチヨットアリマシタガ、若シモ斯ウ云フ年金ノ制度ガアリマシタラバ、假令主家ガ破産シヤウトモ使用人ハ何時デモ利用シ得ル譯デ、大イニ私ナドハ之ヲ企テ見ヤウカト云フコトヲ先年考ヘタノデアリマスガ、ドウモマダ日本デハソレ程利用スル者ガ少ナカラウカト云フノデ其儘ニシテ居、タノデアリマス

○國務大臣(安達謙藏君) 御話ニ依リマシテ、此法案ガ通過シマシテ法律ニナリマシタラバ、之ヲ大キナ會社ナドデモ利用イタシマスコトニ必ズナルダラウト思ヒマス、實ハ此法案ハ藤澤博士ナドノ多年ノ御説ガヤツト生レタ譯デゴザイマス、御蔭デ新聞デ發表シマス所デモ非常ニ好評ヲ博シ、同情シテ居ルヤウデアリマス、所謂通信省デハ消極ノ案デ、郵便局ノ一箇所ニ付テ二名ノ加入者ガアルト云フ、サウ云フ計算カラ加入者ヲ見込シテ居リマス、之ヲウマク宣傳イタシマシタラバ、ナカ／＼増加スルダラウト思ヒテ居リマス、ドウゾ成ルベク速ニ御決定サレテ、實現サセタイト考ヘテ居リマス

○藤澤利喜太郎君 此法案トハ關係ガナイノデアリマスルケレドモ、今幸ニ末延委員カラ通信大臣ニ御話ガアリマシタガ、所謂恩給亡國論、是ハ獨リ日本ニ於テノミナラズ外國ニ於テモ殆ド同一ノ趣意ヲ以チマシテ、恩給亡國論ガ可ナリ盛ンデ、從テソレニ對スル調査等モ行ハレテ居ルヤウニ承知シテ居リマス、我國ニ於キマシテモ單ニ空想ニ非ズシテ、近キ將來ニ於テ眞ニ亡國論タル形ヲ現ハスノデハナイカト思フ、斯ウ云フノハ契約ノ性質ヲ帶ビテ居ルノデアリマスカラ、其時ニナツテハドウニモ斯ウニモ仕方ガナイ、全ク餘談デハアリマスガ、至急ニ此事ニ付テ政府ニ於テ御調査アラムコトヲ切ニ希望イタシマス、ソレカラ此案ニ付キマシテハ、政府委員ノ方ニ伺フテ要領ヲ承ル方ガ近途カト思フノデアリマスガ、衆議院ノ委員會ニ於ケル速記ヲ、實ハ此速記ガ參テ居タノデアリマスガ、私ノ方ニ缺ケテ居ル部分ガアリマシタカラ、今朝實ヒマシテ實ハ甚ダ濟マヌ譯デアリマスガ、今朝來全部強ヒテ讀ミマシタノデ、或

ハ要領或ハ誤解ガアルカモ知レマセヌガ、其衆議院ノ何ノ中デ、斯ウ云フ御質問ガアツタヤノヤウニ承知イタシマス、此制度ハ實ハ強ヒテ非難ヲシマスルコト云フト、少シ通俗ノ言葉デ申シマス高過ギルト云フ懸念ガアリマス、ソレニハ此資金ノ運用ト云フモノヲ成ルベク有利ニスルコトヲ努メナケレバナラス、無論確實デアルト云フ範圍内ニ於テ、有利ニ資金ヲ運用スルコトヲ努メナケレバナラス、然ル上ニ於テ若シ餘裕ガ出來タナラバ、此餘裕ト云フモノハ契約者ノ利益ニナルヤウニ、分配セラルベキモノデアルト云フヤウナコトヲ政府委員ガ御答ニナツテ、サウ云フコトヲシテモ宜イト云フコトガ、此條文ノ中ニナイデハナイカト云フヤウナコトノ御問答ガアツタヤウニ承知致シマス、ソレトモウツハ是ハ度々衆議院ノ委員會デ御話ガアツタヤウデアリマスガ、此差押ノ第十條「年金ヲ受取ルヘキ權利ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス但シ年額二百五十圓ヲ超ユル金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ」之ニ付テハ民事訴訟法ノ六百十八條ノ是ハ差押ヘ得ル金額ハ年額三百圓ヲ超過シタル高ニ付テハ其半額ヲ差押ヘルコトヲ得ルト云フコトニナツテ居リ、且ツ又民事訴訟法モ明治二十三年ニ出來タモノデアツテ、今回ノ改正ニ於テモ、現ニ貴族院ヲ通過シテ、現在衆議院ニ於テ御審議中ノ改正案ニ於テモ、此點ニ付テハ少シモ改正ガナイ、併シ明治二十三年頃ノ三百圓ト云フコトデアレバ今日ハ千圓以上ニモ該當スルモノデアルト云フヤウナ、サウ云フヤウナ御議論ガアツテ、サウ云フヤウナコトデアルカラシテ、免ニ角先ヅ前途ノ豫想ヲ申スコトハ甚如何デゴザイマスガ、早晚民事訴訟法ノ六百十八條ノ金額モ是ハ殖エナケレバナラヌ、旁々此方モ十條ノ但書ノ制限額モ三百

圓ニシタラ宜カラウ、新聞紙上ナドニハ、既ニ委員會ニ於テ三百圓ニナツタト云フヤウナコトモ實ハ書イテアツタ、新聞モアツタノデアリマスガ、併シ是ハ新聞ノ間違デアツタト考ヘルノデアリマス、其當時政府委員ノ御答デハ一時拂ヒノ年金デアリマス云フト、二百五十圓ニスルト云フト、年齢ヲ五十、六十ニシテ約四千圓程ノモノデアアル、四千圓カラノ金ヲ以テ此年金ヲ買得ルヤウナ、狀況デアツタナラバ、若シ此人ガ負債ヲ有テ居テ、債權ヲモクル爲ニ此年金ヲ買フト云フヤウナ弊害モ生ズルカラ、ソレ是レノ考カラシテ、二百五十圓ト云フ現在ノ原案ガ其儘ニナツテ居ルト云フヤウナ風ニ、之ヲ一寸或ハ餘計違ヒガアルカモ知レマセヌガ、拜讀シタノデアリマス、唯今ノ二點ニ付キマシテ果シテ私ノ諒解シマシタ所ニ間違ガアリマスヤ否ヤ、一寸伺フテ見タイト思ヒマス

○子爵大河内輝耕君 一寸今ノニ關聯シテ：唯今色々何カ高過ギル、安イト云フヤウナ御質問ガゴザイマシタガ、實ハ此機會ニ一寸此掛金ト支拂金ノ計算ヲ大體御説明ヲ願フト大變我々ノ諒解ニ便利ダラウト思ヒマス合セテ：

○政府委員(今井田清徳君) 掛金計算ノ基礎ニ付キマシテ先ニ御答致シマス、掛金ヲ積ミマスノニハ先程政務官ヨリ説明ガアリマシタ通りニ死亡率ト豫定率ト、ソレカラ事業費ニ充テル附加率此三ツカラ掛金ヲ出スノデアリマス、ソコデ御手許ニ差上ゲマシタ表ハ豫定利率ノ關係デ別々ノ表ヲ書イテアリマスケレドモ、其掛金ハ年金百圓ニ對シテ幾ノ掛金ヲ拂込ムベキカト云フコトノ表ナノデアリマス、其計算ヲ致シマスノハ、唯今申シマシタ死亡率ノ豫定率ソレカラ附加率、此三ツカラ出シテ居ルノデア

リマス、極ク譬ヘテ平易ニ申シマスレバ、四十歳ノ人ガ假リ二十人同一ノ契約ヲ致シタト致シマスレバ、其人ガ何歳デ何人死ヌカ、譬ヘテ申シマスレバ、五十歳デ何人死ヌカ、五十一歳デ何人死ヌカ、六十歳デ何人死ヌカト云フ死亡推斷表ト云フモノヲ豫定シマシテ、其人ガ支拂開始カラ死ヌ迄ハ二百圓ヅ、ノ年金ヲ渡サナケレバナラス、其必要ナル經費ヲ割出シテ見マシテ、其元金ガ幾ラニナル、ソレヲ年六分ナラ六分ノ利率デ積立ツテ、ソレヲ四十歳ノ時ニ拂込ムト致シマスレバ、其元金ハ幾ラデ宜イカ、更ニ取扱手数料トシマシテ、先程申シマシタ附加率ト云フモノヲ加ヘル、ソレガ其處ニ出マシタ掛金ニナルノデアリマス、デアリマスカラソコニアリマス掛金ヲ四十ナラ四十ノ時ニ拂込シテ置キマスレバ、其十人ノ人ガ死ヌマデ百圓ヅ、ヲ渡シマシテ、而カモ、事業費ヲ償フコトガ出來ルト云フ收支決算ガカ／＼合フト云フ計算カラ掛金ガ出テ居ルノデアリマス、要スルニ死亡推斷表ト豫定率、附加率ト云フ三ツカラナツテ居ルモノデアリマシテ、此點ハ普通ノ保險ニ於キマスル掛金、即チ保險料ノ算出ノ方法ト同一デアリマス、ソレカラ藤澤博士ヨリ御話ノ衆議院ニ於キマスル質問デアリマスルガ、唯今御話ノヤウナ質問ガアリマシタ、ソレデ此計算ハ唯今申シマシタヤウナ確實ナル基礎カラ割出ジマシテ、將來五年間ノ死亡狀況ヲ計算致シテ見タノデアリマスルガ、先ヅ大體ニ於キマシテ收支計算ガ償ヒマシテ、極ク僅カナ剩餘金ガ生ズルヤウナ計算ニナツテ居リマス、將來非常ニ利益ガ上ツタナラバドウスルカト云フ御質問デアリマシタガ、將來非常ニ利益ノ上ガルト云フコトノ確實ナル見込ガ付キマスレバ、或ハ掛金ヲ減シマスとか、或ハ利益ノ配當ヲ致

シマストカ、相當契約者ノ利益ノ爲ニ之ヲ利用スルト云フ御答ヲ致シタノデアリマス、是ハ法律或ハ又勅令ノ中ニハ明カニシテナイノデアリマスアレドモ、法律第二條デアリマスルカ、掛金ノ計算ニ關スル規定ハ勅令決定メルト云フコトニシテ、即チ掛金ヲ廉ク致シマストカ、或ハ掛金ヲ返シマストカ云フコトハ、掛金ノ計算ニ關スル事項デアリマスカラシテ、サウ云フ必要ガ生ジマスレバ、此第二條ノ第二項ニ基キマシテ、勅令以下ニ依テ規則ヲ設クルヤウニ致シタイト云フ考ヲ有テ居リマス、ソレカラ差押ノ點ニ付キマシテハ、唯今御説ノヤウナ質問ガアリ、考究ヲ致スト云フ答辯ヲ致シタノデアリマスルガ、是全ク民事訴訟法ニ決メテ居リマス所ノ所得ト其所得ノ性質ガ違フノデアリマシテ、民事訴訟法ノ所得ハ恩惠ノ或ハ養ヒ料デアリマストカ、或ハ恩給デアリマストカ云フヤウナモノト其外ハ給料又ハ俸給ト云フヤウナ勤務所得ニ屬スル所得ノデアリマス、年金ノ所得ハ其原因ハ勤務所得デアリマスアレドモ、結果カラ申シマスレバ金ヲ積立テタ、其積立テタ金ニ依テ得タ利子カラ成立シモノデアリマシテ、寧ろ資本カラ生ズル所ノ資本所得トモ言フベキモノデアリマスノデ、サウ云フ風ニ一ツノ性質ガ全ク違テ居リマス關係カラ同一ニ見ルコトハ如何カト考ヘマス、尙ホ年金ノ二百五十圓ヲ支拂フ其掛金ノ元ニ付テ申マスレバ、最も大キナル額ハ相當ノ多額ニ上リマス、多額ナ掛金ヲ拂込ミマシテ、サウシテ其金ヲ得ラレルノデアリマスガ、ソレガ全然差押ガ出來ナイト云フコトニナリマスナラバ、是ハ債權者ヲ害スルトカ之ヲ惡用スルトカ云フ弊ガナイトモ限ラナイノデアリマス、サウ云フ弊害ヲ出來ルダケ少ナク致シタイト云フ考カラ

致シマシテ、最少限度ノ生活、是ハ程度問題デアリマシテ、幾何カ最少限度デアルカト云フコトハ勿論議論ガアリマセウガ、全國如何ニ物價ガ安イ所デアリマシテモ、一人ノ生活費ガ最少限度ニ於テ必要デアルト云フ月額ニスレバ、二十圓餘、年額ニ致シマス二百五十圓ト云フモノニ特別ノ保護ヲ與ヘタナラバ、是デ十分ダトハ申上ダ兼ネマスガ、適當デハナカラウ、即チ所得ノ性質カラ考ヘマシテ、又債權者保護ノ點カラ考ヘマシテ、此程度ガ適當デアラウト云フコトデ二百五十圓ト致シタ譯デアリマス

○子爵大河内輝耕君 私モ衆議院ノ質問デチヨット拜見シタノデスガ、民間ノ方ニ之ヲヤッテ居ルモノハ殆ドナイト云フ御話ノデスガ、是ハ唯今藤澤博士ノ御話ノヤウニ、是ガ餘リ高過ギルト云フヤウナコトナラバ、又民間ノ方ニモサウ云フモノガ起テ然ルベキヤウニモ思ヒマスガ、其起ラナイ譯ハドウ云フ御見込ナンデスカ

○國務大臣(安達謙藏君) 算盤ヲ取りマシテ引合ハナイト申上ダタラ一番簡單ダラウト思ヒマスガ、國家トシテ之ヲヤリマシテ、非營利的ニヤッテウマク行ク見込ガ付イタト云フモノハ、御承知ノ通り八千六百ノ全國ニアル郵便局ヲ持テ居リマス、ソレデ此郵便局ヲ利用シテ其窓口デ之ヲ取扱ヒマスカラ、ソレデ經費モ何モ掛リマセヌ、ソレデ立チ行キマスアレドモ、之ヲ民間デヤリマシタナラバ、中ノ經費倒レガシテ立チ行カナイ、最初遞信省デ色々此法案ノ下相談ヲ致シマスル折ニ獨占論ガアツタ、是ハ官營ニシテ獨占ニスレバ宜イト云フ話モアリマシタ、併シソレデハドウモ既ニ微々タルモノデアルケレドモ、之ヲ民間デヤッテモ居リマスシ宜シクナイカラ、獨占ニ致シマセナカッタケレドモ、現狀ニ於キマシテハ民間デ

之ヲヤラウト云フ會社ハナカラウト思ヒマス、今一會社及ビ外國ノ一會社ガアリマスケレドモ、殆ド加入者ハナイト云フ有様デアリマス、サウ云フ意味カラ考ヘマスト民間デ算盤ヲ取テ此事業ヲヤラウト云フ會社ハ起ラナイト考ヘテ居リマス

○子爵大河内輝耕君 此年金額ニ最高額ヲ御決メニナッタノハ中産階級以下ニ對スル施設デアルノデ、少數ノ高額加入者ガアルト、事業ニ惡影響ヲ受ケルト云フコトデゴザイマスガ、其惡影響ト云フコトハ主トシテドウ云フコトヲ仰シヤルノデゴザイマス

○政府委員(今井田清德君) 惡影響ト申シマスノハ、事業ノ計算ノ基礎ニ危險ナ影響ヲ及ボス、斯ウ云フ意味デアリマスルガ、ソレハ此保險ノ理想カラ言ヒマスレバ同一額ノ年金ヲ多數ノ人ガ加入サレルガ一番理想ナデアリマス、所ガ大體ニ於テ想像シマスノニ、サウ多數ノ人申込ハ澤山ナイノデアリマシテ、極ク少數ダラウト思フ、而カモ少數ノ多額ノ人ハドウ云フ場合ニ申込ムカト申シマスレバ、自分ハ非常ニ長命ヲスル、從テ拂込シタ掛金ヨリモ多數ノ年金ガ貰ヘルト云フ、非常ニ利益デアル場合ニ限ッテ、多額ノ申込ヲサレル人ガ多イノデアリマス、是ハ普通ノ生命保險ニ於キマシテモ額ノ大キイモノハ死亡率ガ比較的多イト云フヤウナ傾向ヲ有テ居リマス、ソレト是ハ反對デアリマスカラシテ、額ノ大キイ人ハ長命ヲスル、長命ヲスル人ガ額ノ大キイノヲ申込ムト云フコトニナラウカト考ヘマスルガ、三千圓デアルトカ、五千圓、或ハ一万圓ト云フヤウナ非常ニ大キナ年金ヲ取ル人ガ而カモ長命ヲスル人ガ極ク小サク這入テ來ラレマスト云フト、其人ノ爲ニ非常ニ此年金ノ經濟ノ負擔ト云フモノガ重クナリマシ

テ、其爲ニ計算ノ基礎ニ影響ヲ及ボシ、此趣旨ガ成立テ行カスト云フヤウナ虞ガアリマシテ設ケタノデアリマシテ、總テノ保險事業ニ於キマシテモ最高ノ總金額ト云フモノハ各々設ケテ居リマス、是ハ中産階級以下ヲ目的ト致シマスルカラ、小額ニハ止メテ居リマスルガ、サウ云フ惡影響ヲ受ケル理由モアリマスルト云フコトモ、一ツノ理由ニ加テ居リ譯デアリマス

○子爵大河内輝耕君 掛金ノ計算ノコトハ今大體伺ヒマシタシ、又外國等ノ例モ表ニ刷ッテ頂戴イタシテ居リマスデスガ、マダ詳細ニ研究スル暇ガナイノデアリマスガ、外國ト比較シマシテ掛金ノ割合ガドンナ風ニナッテ居リマス

○政府委員(今井田清德君) 外國ト何割コチラガ安クナッテ居リマスカ、ト云フ表ハ出シテ居リマセヌガ、大體ニ於テ外國ヨリモ掛金ガ安クナッテ居リマス、外國ヨリモ掛金ガ安クナッテ居リマス理由ハ、一ツハ金利ガ外國ヨリモ日本ハ一體ニ高イノデアリマス、從テ此計算ノ基礎ニナリマス所ノ豫定利率ガ外國ヨリモ高ク見テ居リマス、外國ハ三分デアリマストカ、或ハ四分デアリマストカ、利率ノ如キハ「コンスル」公債ノ利子ヲ標準ト致シテ二分五厘ト云フコトニナッテ居リマス、然ルニ此事業ニ於キマシテハ分割拂ナドハ五分、一時拂ノモノニ付キマシテハ其時ノ公債ノ相場ニ依ッテ決メルコトニ致シテ居リマス、假リニ今日ノ公債ノ相場決メマスレバ凡ソ六分見當ノ豫定利率トナリマス、サウ云フヤウニ豫定利率ガ外國ヨリモ日本ノ方ガ高クナッテ居リマスカラシテ、是ガ一ツノ原因トナリマシテ、日本ノ掛金ガ外國ヨリモ安クナッテ居リマス、尙ホ先程大臣ヨリ御話ガアリマシタ通り、既設機關ヲ利用イタシマシテ出來ルダ

ケ經營費ヲ安ク上ダタイ、計算ノ基礎トシ
マシテハ凡ソ百分ノ五ヲ事業費ニ充テル計
算ニナツテ居リマス、此事業費ヲ出來ルダ
ケ節約スルト云フ關係カラ致シマシテ尙ホ
掛金ガ比較ノ安クナルト云フコトニ相成ル
ノデアリマス、斯ウ云フ風ハ十二ツノ原因ガ
主トナリマシテ外國ヨリモ概シテ日本ノ方
ノ掛金ガ安クナツテ居ルカト考ヘマス、其比
較シテドノ位安クナツテ居ルカト云フコト
ハ出シテアリマセヌノデ、何レ尙ホ計算イ
タシマシテ御答ヘシタイト思ヒマス

○子爵大河内輝耕君 事業經營費トシテ百
分ノ五ヲ見テ御出デニナリマスガ、是ハ此
會計ノ計算カラ言フト、ドウ云フモノガ財
源ニ當テ居リマセウカ、掛金ヲ御取リニ
ナツテ、サウシテソレヲ利殖スル、其利殖
シタノハ其元金ノ支拂ノ財源ニ御當テニナ
ルヤウニ思ヒマスガ、サウスルト此百分ノ
五ノ事業經營費ケハ何カ別ノモノカラ出テ
來ナケレバナナイコトニナリマスガ、大
變細カイコトノヤウニ思ヒマスガ、其經費
ハドウナツテ居ルノデアリマスガ

○政府委員(川崎克君) ソレハ大體極ク簡
單ニ申上ダマス、加入者ノ途中ノ死亡者
ガ、大體經營費ニ充テル譯デゴザイマス、
生存保險デアリマスカラ、死ネバ元金留保
ノモノト雖モ、利息ガ付カナイデ受ケ取
ル、元金拋棄ノモノハ丁度火災保險ト同ジ
ヤウナモノデ、拋棄シテ了ヒマス、其結
果、死亡者ハ經營費ヲ償フテ行クト云フヤ
ウニ、マア簡單ニ御諒承ヲ願ヘバ一番分リ
宜イト思ヒマス、簡易保險ノ方ハ經營費モ
複雑イタシテ居リマスカラ、百分ノ二十三
ト云フ多額ノ割合ニナツテ居リマス、年金
ノ方ハ、百分ノ五ト云フ極メテ易ク見積リテ
居リマス、勸誘員モ使ハズ、郵便局ノ窓口
ニヤルト云フヤウナコトカラ、サウ云フ安

イ割合ガ出テ居ルノデアリマス、大體ノ計
算ハソコカラ出テ居リマス

○子爵大河内輝耕君 掛金ノ計算ニ依テ
死亡ノコトハ無論安全率ハ大分見テヤルヤ
ウデゴザイマスガ、此中ニモ途中ノ死亡者
ト云フヤウナモノハ無論アルノデゴザイマ
スガ、今ノ御話ダト此死亡率ニ依テ算出
シタ死亡ノ仕方ヨリモ、モト多ク死シタモ
ト、斯ウ云フ意味ニナルノデゴザイマセ
ウカ

○政府委員(川崎克君) 死亡率ノ計算ハ大
體國民ノ死亡出生ニ關スル表ヲ基礎ニシマ
シテ、其上ニ男子ニ在リテハ二割、女子ニ
在リテハ三割餘計ニ死ナイ勘定ヲ見テ居
ルノデアリマス、是ハ矢張り外國邊リノ例
モ殆ドサウ云フ風ニナツテ居リマシテ、年
金ニ入ル者ハ健康者ガ這入ル、ソレカラ這
入リマシテ後ニ、自分ノ生存ヲ保證セラレ
ルト云フ關係カラ、年金加入者ハ比較ノ這
入ル者モ長命ノ積リデアリ、這入テ後モ
長命ニナルト云フ勘定デ、ドウシテモ長生
キラスル勘定ニナル、其勘定デ割出シマシ
テ、大體死亡率ニ伴フ利益ト云フモノヲ見
マシテ、サウシテ其利益ガ今申上ダマシタ
ヤウナ工合ニ、經營費ニ充テテ居ルノデア
リマス、ソレハ加入者ノ金額ガ非常ニ多
ク、又金額ノ少ナイ場合ト、金額ノ多い場
合トノ平均ガドウ云フ風ニナルカト云ヘ
バ、今ノ見積リヨリモ金額ガ多イ、加入者
ガ多い場合ニハ、ドウシテモ經營費ヨリモ
死亡利差ガ多クナツテ參ルト思ヒマス、今
ノ勘定デハ、大體今申上ダタヤウナ計算デ
兩方ノ償ヒガ付ク計算デ、凡ソサウ云フ見
當ニナツテ居リマス

○委員長(侯爵佐佐木行忠君) 速記ヲ止メ
テ……

〔速記中止〕

○子爵大河内輝耕君 尙ホ一點伺ヒマス
ガ、唯今恩給ノ質問モ出マシタガ、恩給ノ
アノ計算方ナント云フモノハ、殆ンド何モ
學理上ノ割出シデモ何デモナイヤウニ私共
ハ考ヘテ居リマスガ、此方ハ色々ムツカシ
イ計算カラサウ云フ風ニ御ヤリニナツタ
ンデ、基礎ガアルト思ヒマスガ、サウスルト
是ハ年々金ガ澤山餘リテ、大分ナモノニ殖
エテ參ラウト思ヒマスガ、一方ニハ又年金
者ノ、詰リ此會計カラ言イマス債務カラ
デスナ、年金義務ノ數トカ、或ハ年齢トカ
云フモノハ始終御調ベニナツテ、果シテ是
ダケノ資金デ間ニ合フモノデアルヤ否ヤ、
ソレカラ純益金ト云フモノハドレダケ淨イ
テ居ルモノデアルヤ否ヤ、是ダケハ始終御
計算ニナツテ居ルモノト思ヒマスガ、サウ
心得テ宜シウゴザイマスガ

○政府委員(今井田清德君) 唯今御話ノ通
リ、始終注意ヲ致シテ居リマス、ソレデ死
亡率ニ付キマシテモ、非常ニ申上ダテハ
語弊ガアルカモ知レマセヌガ、確實ニ見込
ンデ居リマスカラ、基礎ノ動搖ヲ起スヤウ
ナコトハナイト考ヘマス、又唯今ノ御話ニ
ハ、剩餘金ガ相當出ルト云フ話デアリマ
シタガ、私共ノ方デ將來五年間ノ見込ヲ立
テマシテ、計算シタ所ニ依リマスレバ大體
ニ於テ收入ガ相償ヒマシテ、不足モ生ジナ
イシ、又多ク剩餘金モ生ジナイト云フ計
算デアリマス、併シテハ豫想ノ中デアリマ
スカラ、年々實情ニ付キマシテハ、始終調
査イタシマシテ、利子ノ變化、又ハ死亡率
ニ非常ナ變化ガアリマスレバ相當ニ其度ニ
會計ノコトニ付テモ考慮シナケレバナラヌ
ト考ヘテ居リマス

○子爵大河内輝耕君 此方ノ會計バカリザ
ヤアリマセヌ、是ハ總テノ會計モサウナン
デスガ、之ニ付テモ無論關係ハ致シテ居リ

マスガ、此頃政府ニ色々官業ガ入ッテ來マ
シタノデ、普通ノ歳入歳出ノ決算ヲ見セタ
ノデヤ殆ド解スルコトガ出來ナイ、ソレデ
斯ウ云フ特別ノモノニ付キマシテハ、豫算
ナリ、或ハ決算ノ上ナリデ、其收支ガ唯ダ
歳入歳出バカリデナク、今ノヤウナ貸借對
照表ノヤウナモノヲ御作リニナツテ合計ガ
ドノ位ニナツテ居ルト云フコトハ、折ニ觸
レテ、豫算ノ編成ノ折リカ、或ハ決算ノ御
提出ノ折デモ宜シウゴザイマスガ、何カ議
會ニ御報告ニナル、斯ウ云フ必要ガアルダ
ラウト思ヒマスガ、其邊ハ如何ニ御考ニナ
リマスガ

○政府委員(今井田清德君) 唯今ノ御說ハ
御尤モト考ヘマス、デ此事業ニ付キマシテ
モ、民間ニ於ケル保險事業ト同ジヤウニ、
損益計算表、貸借對照表、財産目録ト云フ
ヤウナモノヲ作り、現ニ私共ノ方デ經營イ
タシテ居リマスル簡易保險デモ、議會ニハ
提出イタシマセヌガ、同ジク貸借對照表、
損益計算表、財産目録其他收支計算表ノヤ
ウナモノヲ拵ヘテ居リマス、唯今ノ御說ト
同ジヤウナ處置ヲ採テ居リマス、此施設
ニ付キマシテモ、將來サウ云フ方法ヲ取リ
タイト云フ考ヲ有テ居リマス、左様御諒
承ヲ願ヒマス

○子爵大河内輝耕君 サウ云フコトヲ御作
リニナルト云フコトハ、大變ニ結構ダト思
ヒマスガ、是ハ勿論國庫金ノコトデ、此權
利者並ニ義務者ハ國家ガ主體ニナツテ居リ
マス、之ガ規則ヲ御設ケニナレバ尙ホ結構
デ、尙ホ外ノ規則デモ宜シウゴザイマス
ガ、何カ制度トシテ御設ケニナツテ、サウシ
テ議會ニ御出シニナルト云フコトハ、是非
必要ナヤウニ私ハ考ヘマスガ、幸ヒ大臣モ
御出デノコトデ、其邊ノ御考ハ如何デアリ
マスガ

政府委員

逓信政務次官 頼母木桂吉君
逓信參與官 川崎 克君
逓信省經理局長 最所 文二君
簡易保險局長 今井田清徳君

○國務大臣(安達謙藏君) 今ノ御話ハ大臣ト致シマシテハ能ク御趣意ヲ體シマシテ考慮スルコトニ致シテ置キマス、色々ソソナモノヲ議會ニ出ス書類ガデスネ、逓信大臣ハ近頃デスガ、議員トシテデスネ、物足ラヌ感ジモスルコトモアッタノデアリマスカラ、能ク御趣意ヲ體シテ、是ハ大藏省ノ豫算ノ編成ノ仕方モアラウト思ヒマスカラ、十分注意イタシテ置キマス

○政府委員(今井田清徳君) チョット先程外國トノ比較ト云フ御話ガアリマシタガ、色々外國ノトハ條件ガ違ヒマスノデ、的確ナル比較ト云フモノハ申上兼ネマスルガ、チョット計算ヲ致シテ見マシタノデアリマスガ、外國ノ方ヨリ日本ノ方ガ一割乃至二割位掛金ガ安クナッテ居リマス、又据置ニ於キマシテハ、外國ヨリ半分以上日本ノ方ガ安クナッテ居ルノモアリマス、國ニ依リ、會社ニ依リ各、違ヒマスガ、サウ云フ風ニ大部分安クナッテ居ル計算ニナッテ居リマス
○委員長(侯爵佐佐木行忠君) ソレデハ大體ノ御質問ハ是デ終ラレタモノト認メマス、本日ハ之ニテ散會イタシマス
午後二時十七分散會

出席者左ノ如シ

委員長 侯爵佐佐木行忠君
副委員長 小松謙次郎君
委員

子爵大河内輝耕君
藤澤利喜太郎君
男爵黒田 長和君
末延 道成君
永田 仁助君
山崎 龜吉君

國務大臣

逓信大臣 安達 謙藏君